

2 栗原圏域における観光振興施策について



仙台・宮城観光PRキャラクター
むすび丸

圏域会議・宿泊事業者部会での意見交換概要

【栗原圏域】圏域観光に対する御意見

- 観光に来て地域にお金を落としてくれる層は60～70代が多い。コロナ禍以降、栗駒山の登山客の入浴の利用も減り、消費しなくなっている印象がある。
- 夜間のタクシーや運転代行があまり稼働しておらず、観光の重要な要素である「食」を提供する飲食店の課題となっている。
- 観光施設が点在しており、観光客の移動手段の確保が難しい。
- 海外からの宿泊客には、宮城県内の各地域の観光情報が知られておらず、行くための交通手段も分からない。

（１）戦略的な観光地域づくり【圏域会議】

- 施策の内容は良いが、誰が事業主体となり、どう進めていくかが課題。舵取り役の体制整備をどうするかなど、圏域会議で議論していくことができると良い。
- 様々な事業者が提供する二次交通や観光コンテンツをとりまとめる中心的な団体が必要であり、そのための経費助成をしてほしい。
- 栗原市内で現在は年3回実施している「くりこま夜市」を毎週末など恒常的に実施していきたいと考えており、そのために必要なハード整備や情報発信、市の公共交通機関の臨時運行などに使える事業予算があると良い。
- JRでは毎週金曜日の夜に仙台＝石越間を運行しており、この列車を利用した宿泊や周辺地域の観光につなげられないかと考えている。
- 栗原地域にはまだ商品化されていない地域資源があり、そうした資源の活用に向けた民間の取組への支援や施策があると良い。
- 訪問先として選んでもらうためには、普段はできないことができるイベントの開催など、他にはないコンテンツづくりが大切。
- モニターツアーはこれまでも繰り返し行われているので、実施後の効果検証をしっかりと行ってほしい。
- 新たな試みを実証することは大切。1年では結果が出ないため、例えば3年など、ある程度の期間を設けて取り組めるようにしてほしい。

（１）戦略的な観光地域づくり【宿泊事業者部会】

- 各業種の観光関係者をとりまとめ、方向性付けをできるような地域観光の舵取り役を担う体制整備が進むと良い。事業を動かしていく人材も必要であり、その強化に向けては、民間の負担を減らし公共的な予算を入れてもらいたい。
- 宿泊・交通事業者など関係者がアイデアや強味を活かし、栗原圏域全体の観光振興をインバウンドも含め中長期的に考えられる組織として、宿泊税を活用してDMOをつくり、国の補助事業などにもトライできる体制になるとよい。
- 地域の宿泊事業者が集まる場合は意外と少ないので、今回のような場を通じて情報交換できることは非常に参考になる。
- 宿泊客向けに飲食店等の情報が掲載された「まち歩きマップ」等があると、観光消費額の増加にもつながるのでは。
- 登山客向けに物販イベント等を実施する際は、お金を落としてもらうための仕組みや工夫が必要。
- 栗駒山麓ジオパークと周辺各地のジオパークが連携した広域周遊、広域観光ができると面白い。
- 仕事で宿泊した方が後日、余暇で家族と過ごす場所として宮城県を選ぶ動機の一つとなるポイント付与の取組があっても良い。
- 「リトリート」といわれる心の癒しにつながる滞在など、新しい分野や隠れたニーズについて探るのもよいのではないかと。
- 地域における宿泊税活用事業について、栗原市主体の事業はもちろんのこと、他圏域の成功事例などを栗原地域で展開できるような県の俯瞰的な視点が反映される施策を取り入れてほしい。また、この場に参加できない事業者の方にも広く平等に分配される施策を望む。

圏域会議・宿泊事業者部会での意見交換概要

（２）周遊性向上のための二次交通対策【圏域会議】

- 民間だけで実施するのはリスクが高い定期観光バスのような取組へのチャレンジに、財源を活用してほしい。
- 夜間に運転代行やタクシーがあまり稼働しておらず、それを補う方法が実現できれば、飲食業を中心に地域経済が回ると思う。
- 新幹線駅を降りてもタクシーがないことがあり、観光客が必要としたときに車を手配できる仕組み、ライドシェアなどが実現できると良い。
- ジャンボタクシーの利用に対する補助や、レンタカー会社が自動運転車両を導入する際等に使える補助があると良い。
- 二次交通の課題解消は難しい。「ジオトレイル」を推進しており、こうした自分で歩いて移動するという取組とも協力・連携を図ってほしい。
- 二次交通対策として、レンタカー店でクラシックカーなどの魅力的な車を借りられるようにしたり、サイクリスト向けのツアーを作ったりできると、好きな車や自転車で地域を巡ってもらえるのではないかな。

（２）周遊性向上のための二次交通対策【宿泊事業者部会】

- 宿泊施設共同による送迎運行はあったら良いと思うが、最初からシステム化するのは難しいため、まず実証を通じて利用者のニーズを把握してはどうか。
- JRと高速乗合バス、市民バス等の地域内を運行する公共交通の乗り継ぎ時刻や場所、運賃等について、利用者が出発地と目的地を入力するだけで容易に検索できる、栗原版「NAVITIME」のような乗り替え案内サイトが構築されると良い。
- 仙台＝栗原間の高速乗合バスを活用した送迎付きの宿泊プランが好評で、一定の集客につながっている。
- オンシーズンに仙台空港からいわかがみ平への直通の高速乗合バスがあれば、インバウンドも含め、ダイレクトに来てもらえる。
- ライドシェアや、JRくりこま高原駅から温泉旅館までの移送において、タクシー事業者に補助金が入る仕組みを取り入れてほしい。
- 個人旅行が中心になってきているので、複数の宿泊施設を経由して観光に回るようなオプションツアー（小規模な観光プラン）を連携して作れると良い。
- 宿泊事業者が送迎用に使う車両の購入に活用できる補助事業がほしい。
- 宿泊事業者が自分たちのできる範囲で、送迎用の車を使って観光の依頼に対応でき、それに対する補助も受けられるような仕組みがあるとよい。

圏域会議・宿泊事業者部会での意見交換概要

(3) 快適な旅行環境のための受入環境整備 【圏域会議】	(3) 快適な旅行環境のための受入環境整備 【宿泊事業者部会】
○人材の確保に苦慮しており、<u>民間サービス(タイミー等)と組合など何らかの組織が連携して、個々の事業者は、繁忙期などにそこから人を派遣してもらえる仕組みが県全体でできると良い。</u> ○民泊事業者が各自で予約サイトの立ち上げやO T Aを活用することに難しさを感じる。<u>イタリアのアルベルゴ・ディフーゾのような、予約やチェックインなどの手配を既存旅館などに集中的に行ってもらおう仕組みと、その仕組みに対する経費の助成があるとありがたい。</u> ○ガイド機能の強化について、ガイドが観光客の送迎を含めて実施するビジネスモデルの構築や、リスクマネジメント・応急手当・環境への配慮等への知識を学べる施策があると良い。	○宿泊業界の人手不足解消策として、都市部の学生など地域外の人材と事業者をウェブ上でマッチングする「おてつたび」のような手段を使うことで、人材不足の解消につながる。更に、若年層の来訪促進や関係人口の創出、移住や就職への繋がりも期待できるのではないかと。 ○都市部の学生など、地域外の人材を活用して旅館業務を手伝ってもらおう際、交通費等の補助があるとありがたい。参加した学生等は地域のファンとなり、関係人口増大にもつながっている。 ○人材育成について、宿泊事業やバス事業ともに働き手の年齢層が高く、将来的な担い手となる若い世代にフォーカスを当てた人材確保・人材育成が必要。
(4) ターゲットを意識した効果的なプロモーションの展開 【圏域会議】	(4) ターゲットを意識した効果的なプロモーションの展開 【宿泊事業者部会】
○栗原市そのものを知らない人に旅行商品などを見て「行ってみたい」と思ってもらうには、この地域をもっと発信して、見どころなどをP Rしていく必要がある。	○栗駒山は紅葉の時期の客が非常に多いが、新緑の時期も素晴らしいので、そこをP Rすることで年に複数回来ていただけるようになるのでは。 ○インバウンド向けに、仙台空港で栗原地域をP Rするイベントができると良い。 ○新幹線で駅に着いてから地域の観光スポットを回る旅の一連の流れを、移動手段を含めて紹介する情報発信があれば良い。 ○宮城・栗原の認知度は低いので、海外（特に台湾など）で開催される旅行博への積極的な参加や、SNSの活用などを通じて認知度を高めていく必要がある。

【参考】栗原圏域の観光の現状と課題

(1) 観光客入込数

栗原圏域の入込数は、対前年比7%増加の177万人

(単位: 万人)

	H31 (R1)	R5	R6	H31(R1)年比	R5年比
仙南圏域	718	670	708	98.6%	105.7%
仙台圏域	3,679	3,936	4,073	110.7%	103.5%
大崎圏域	941	809	847	90.0%	104.7%
栗原圏域	190	166	177	93.2%	106.6%
登米圏域	347	281	293	84.4%	104.3%
石巻圏域	550	637	639	116.2%	100.3%
気仙沼・本吉圏域	371	324	314	84.6%	96.9%
県全体	6,796	6,824	7,051	103.8%	103.3%

(2) 宿泊観光客数

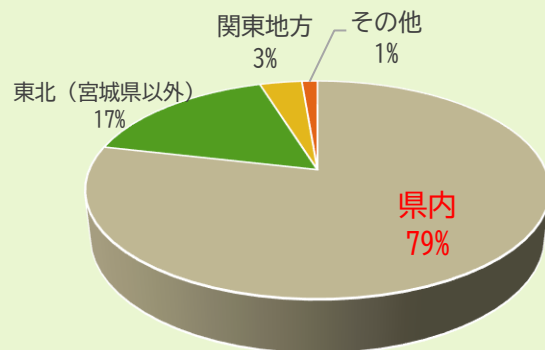
栗原圏域の宿泊観光客数は、前年と同水準の約9万人泊

(単位: 万人泊)

	H31 (R1)	R5	R6	H31(R1)年比	R5年比
仙南圏域	71	63	63	88.7%	100.0%
仙台圏域	742	727	770	103.8%	105.9%
大崎圏域	77	54	58	75.3%	107.4%
栗原圏域	11	9	9	81.8%	100.0%
登米圏域	9	8	9	100.0%	112.5%
石巻圏域	38	42	38	100.0%	90.5%
気仙沼・本吉圏域	42	40	42	100.0%	105.0%
県全体	989	943	988	99.9%	104.8%

(3) 旅行者の居住地エリア

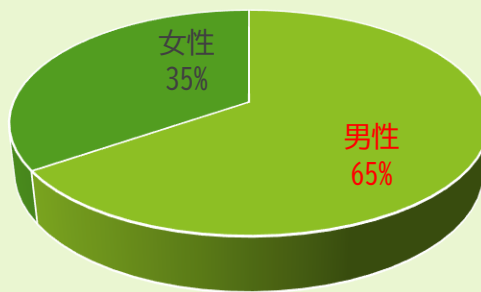
県内客が約8割を占め、宮城県を含む東北地方では96%を占める。



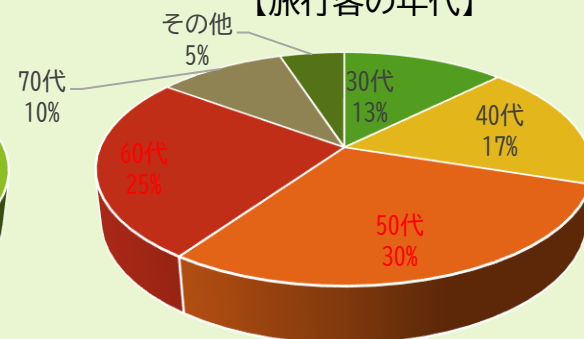
(4) 旅行者の性別・年代

男性が65%を占め、年代別では50代 (30%)、60代 (25%) の割合が高い。

【旅行者の性別】



【旅行者の年代】



栗原圏域における観光振興施策について

事業名 栗原圏域観光魅力向上推進事業

予算額：10,000千円

うち宿泊税：5,000千円

【事業内容】 ※内容詳細は現在調整中(6/4時点)、6月中に業務委託契約を締結・業務開始を予定

- 1 栗駒山及び内沼・伊豆沼などの魅力ある観光資源や栗原地域のイベント、食等の観光コンテンツを体験できる二次交通を組み合わせた旅行商品の企画、販売、運営を行うこと(合計8本程度)。
- 2 くりこま高原駅周辺でナイトコンテンツ化可能な酒や食をテーマとした新たなイベント(酒フェス)の開催及びイベントへの参加・送迎・宿泊を含むプランの造成・販売
 - 酒フェス(仮称) ※内容詳細は現在調整中(6/4時点)
 - ・栗原市内の蔵元が一堂に会し、栗原市産の日本酒及び地元産の食材を活用した食品などを販売するイベント
 - ・開催時間 令和8年9月12日(土)
 - ・開催場所 エポカ21及びくりこま高原駅
- 3 上記1、2に係る地域観光プロモーション、データ収集・分析の実施

【スケジュール】

項目	春	夏	秋	冬
旅行商品造成・販売	ツアー造成		旅行商品の周知・PR	
	商品販売とデータ収集			
	企画検討		開催準備	
酒フェス	フェス実施			

御意見を頂戴したいこと



仙台・宮城観光PRキャラクター
むすび丸

御意見を頂戴したいこと

栗原圏域における観光振興施策について

○令和8年度栗原圏域観光魅力向上推進事業に係る御意見はありますか？

○栗原圏域における観光振興施策に対する御期待や御意見はありますか？

（例：インバウンドは、特に訪県数が多い台湾市場に絞るべきでは、造成したツアーを販売までつなげるための取組が必要 等）

御意見を頂戴したいこと

以下の3つの視点も参考に御意見をお願いします。

- 【視点①】地域の観光業が抱える課題への対応・地域の魅力創出に向けた施策など“地域”視点での検討に加え、隣接圏域等との連携による“広域周遊”の視点を踏まえ施策を検討
- 【視点②】宿泊税を納める“納税者(宿泊者)”の視点で有益な使い途施策を検討
- 【視点③】“地域経済活性化”の視点で、滞在時間が長く、消費額単価が高いインバウンドや宿泊観光客の増加に向けた施策や高付加価値化に向けた施策を検討